

早稲田大学 国際教養学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	昨年同様、大問が5つで、それぞれ英文読解問題が2つ、リスニング問題が2つ、自由英作文が1つであった。設問形式も難易度も昨年とほとんど変わっていない。これで国際教養学部の問題も固定していく可能性が高いと思われる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	英文読解問題 (<i>Quetta</i> の沈没とその社会的影響)	非常に長い英文を読ませる問題で、設問は段落要旨問題と内容不一致問題のみ。基本的に内容把握の設問しか出ていない。先に選択肢を見て、該当箇所を探していくような読みをしないと、時間が足りなくなる可能性がある。また、固有名詞が多く、固い評論文などでは見られない単語が多く出ているので、慣れるようにしたい。一文の I、スポーツ科学部の I の問題などで訓練するのもよいだろう。	やや難
II	英文読解問題 (ぼくと犬の死)	超長文問題。精神薄弱者の文を読ませるといった変わった設定なので、それを踏まえて読み進めないと、言っていることがわからなくなる危険性がある。(1)や(2)は、I の問題同様、先に選択肢を見て、該当箇所を探していくように読みたい。これこそ該当箇所を探すのに非常に時間がかかるからである。(3)の下線部の意味を問う問題は、前後の内容をしっかりと考えること！特に、登場人物の心理把握が重要になる。2004 年度の法学部 II に近い問題である。	難
III・IV	リスニング問題	Ⅲはやや難しい英文。どこかの大学で、英文読解問題として出題してもおかしくない英文。やはり選択肢を先に見ておいて、該当部分と思われるところを集中的に聞き取るようにするのが最善であろう。 Ⅳはやさしい英文だが、一度しか読まれず、しかも、一種のパズルゲームの話なので、機転を利かせることも重要。センター試験で行われる予定のやり方とは違い、教室全体のスピーカーから出される英文を聞き取るので、教室によっては当たりはずれがあるかもしれない。	やや難

V	自由英作文	(身近な)社会問題に関して、自分の意見を述べる形式の英作文。3つから選べるが、一番書きやすいもの、理由が簡単に出てくるものを選ぶこと。また、なるべく平易に書くこと。難しい構造や文法、語彙を使う必要はない。自分の言いたいことを相手に正確に伝えることが重要なのである。50～70語程度を目安にしよう！	標準
---	-------	--	----

〔総合コメント〕

2年連続で、ほぼ同じ問題、形式、難易度であったことから、来年度以降は対策を立てやすいだろう。英文読解問題は、固有名詞の多い、超長文に慣れることと、該当箇所を早く見つける訓練をすること。リスニング問題は、市販のCDなどを使って聞き取る訓練をできる限り続けていく。自由英作文問題は、(身近な)社会問題を常に意識し、自分ならこういう立場をとり、その理由はこうだ、と考える習慣をつける。そして、実際英文を書いてみて、英語の先生に見てもらうのがよいだろう。